

朋友だより

、

今年の10月31日に総選挙が実施されることになりました。
今度の総選挙は、「市民と野党の共闘」とこれまでの「自公
政権」とが激突する政権をかけた闘いとなります。
これを機に、日本における市民運動について、振り返って
見ました。
ご参考になれば幸甚です。

2021年10月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



コロナ後の日本社会を展望する



相変わらずコロナ禍が日本全体に影を落としています。

しかし、幸いなことに、このところ新規感染者数は減少傾向が続いています。医療関係者などは、第6波襲来の可能性を指摘し、感染防止の努力継続を呼びかけています。本原稿執筆時(2021.10.18)現在、新規感染者数、死亡者ともに減少傾向なのは、うれしいことです。

ここで、コロナ後の日本社会を展望したいと思います。

コロナ後の日本社会では、一人ひとりの国民の自立・自律が基礎となるでしょう。いわゆる「市民」の確立です。

市民とは何か

今年(2021年)、10月19日(火)公示、10月31日(日)投開票で総選挙が行われます。

今度の総選挙では「市民と野党の共闘」とこれまでの「自公政権」との激突となり、勝った方が政権を担当する政権をかけた闘いとなります。まさに令和版の関ヶ原合戦です。

「市民と野党の共闘」の中心的担い手である「市民」とは、何かについて考えてみます。

市民については、以前「朋友だより」で取り上げました。No.163(2020.4.25付)です。そこでは市民について、次の様に述べています。

「市民」とは、政治的共同体である市及び都市の主権的・主体的な構成員のことです。個々の人間を指す場合と人間集団をまとめて指す場合とがあります。構成員全員が主権者であることが前提です。(朋友だよりNo.163(2020.4.25))

市民の典型例として、思い浮かべるのは、13世紀、暗黒の中世社会を打ち破って自由を守ったイタリアの自由都市フィレンツェの市民達のことです。

そして、そこで生まれ育ち民衆と共に歩んだミケルアンジェロが代表的市民の一人です。日本にこのミケルアンジェロを紹介した名著が、初期の岩波新書から出版されています。

羽仁五郎著『ミケルアンジェロ』(1939年3月

岩波新書)

1939年3月の日本と言えば、軍部が権力をにぎり、満州事変(1931年9月勃発)に次いで、太平洋戦争(1941年12月勃発)の前夜です。この暗黒の時代に、同書が刊行された勇氣に拍手を送りたいと思います。以下は羽仁著書からの引用です。

ルネサンスの本質は、封建専制に対する民衆の自由独立の実現の希望であった。(同書P.23) 実に1283年の変革によって、旧封建貴族を完全に政権から駆逐し、自由都市制の開始において、自ら政権を執ったフィレンツェ市民が農奴的隷属からの農民解放のために決議し、実施した改革は、その根拠とした人間の権利の原則、人権の原則の精神において、遠く後の1789年のフランス革命のそれにつらなるものさえあった。(同書P.46)

日本における市民運動

それでは、日本において市民運動はどの様に展開されたのか見てみます。

まず、板垣退助らを中心に始まる自由民権運動(1880年頃スタート)があげられます。江戸時代の末期です。

そして、自由民権運動の最後と称されるのが、1884年(明治17年)、埼玉県秩父で起こった秩父事件です。生糸の暴落と増税、高利貸による土地のとり上げに苦しむ民衆が、明治政府に真っ向から立ち向かった、秩父困民党の蜂起です。

この時代の作品として、私が好きなものに、島崎藤村が自身の4つの詩集をまとめて出版したときに「自序」があります。(1904年(明治37年))

遂に、新しき詩歌の時は来りぬ。

そはうつくしき曙のごとくなりき。あるものは古の預言者の如く叫び、あるものは西の詩人のごとくに呼ばはり、いづれも明光と新声と空想とに酔へるがごとくなりき。

うらわかき想像は長き眠りより覚めて、民俗の言葉を飾れり。(以下略)

『藤村詩集』(島崎藤村自選 岩波文庫 1995年4月発行)

そして注目されるのが、1918年(大正7年)7月～9月に起こった米騒動です。米価の暴騰のため生活難に苦しんだ大衆が、米の廉売を要求して米屋・富豪邸を襲撃した事件です。富山県魚津に起こり、全国に波及しました。

日本の運動を考えるうえで忘れてはならないものに、日本共産党が1922年(大正11年)7月に創設され、多くの犠牲を強いられながらも99年間、一度も党名を変えず、党の旗を守り抜いたことです。この日本共産党が現在の「市民と野党の共闘」の重要な担い手の一つになっています。

日本には江戸末期から1945年8月の第二次世界大戦終了までの期間、有名な事件を取り上げただけでも、国民・市民による自覚的な運動が数多くあります。

そしてこの流れが国民主権をうたった日本国憲法へとつながっていきます。(1946年(昭和21年)公布)

日本国憲法の前文はすばらしいものです。

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。(以下略)

このように日本にはすばらしい市民、国民による運動の歴史があります。それなのに、その日本で現在、「市民」概念がきちんと国民の間に定着しているとは言い難いは何故でしょう。

私としては次の様に考えています。

日本では政権の座にすわった側の徹底した強権・弾圧姿勢による反対勢力を少数に抑え込むことに成功したからだと考えます。反対勢力を根絶やしにはできないが、少数派にとどめおられました。その為、広く国民の間にその影響を及ぼすことが出来なかったのです。

戦後、一回だけ民主党が政権をとったことがありました。(2009年(平成21年))しかしこの

時は、政権側の未熟さもあり、短命で終わってしまいました。

それから10年余経過し、市民側も徐々に実力をつけてきました。

力を貯えた日本の市民運動

今年に入って、重要な動きが続きます。この数年間の野党共闘にむけた諸々の努力が形に表れたものです。

まず今年9月8日(火)に市民と野党が政策協定に調印しました。

市民連合と立憲民主党、日本共産党、社会民主党、れいわ新選組の4党首との間で調印された6本の柱は下記の通りです。

1. 憲法に基づく政治の回復
2. 科学的知見に基づく新型コロナウイルス対策の強化
3. 格差と貧困を是正する
4. 地球環境を守るエネルギー転換と地域分散型経済システムへの移行
5. ジェンダー視点に基づいた自由で公平な社会の実現
6. 権力の私物化を許さず、公平で透明な行政を実現する

更にもう一つ、大きな動きがありました。9月30日(木)には、立憲民主党と日本共産党との間で、政権が実現した場合の協力について合意がなされました。

いずれも今までにない画期的なことです。

そして迎えるのが10月19日(火)公示、10月31日(日)投開票の総選挙です。「市民と野党の共闘」が十分に力をつけた上で臨む総選挙です。是非とも政権交代を実現して、新しい日本を切り拓きたいものです。

日本には、科学技術の伝統、文化の奥深さ、他人を大切にする「もてなしの心」などいっぱいあります。これらの日本の良さが、近年の「新自由主義的政策」のおかげで、影が薄くなってしまっています。しかし今ならまだ回復可能です。「市民と野党の共闘」の勝利で、今一度すばらしい日本をつくり上げましょう。



株式会社 ミズ・インターナショナル

(東京都港区：代表取締役 水元 澄子 氏)

創業 34 年になる、企業のビジネスマナー研修などを手がける企業です。

私（奥長）は、比較的初期の段階で、同社の研修を受講しています。(株)東京ゼネラルコンサルティングの勤務社員だった頃のことです。

最近でこそ「インターナショナル」は、一般化していますが、34 年前、時代に先駆け「インターナショナル」を社名にとり入れた先進性に注目したいと思います。

同社の研修は、ロールプレイングを中心とした受講者参加型の研修が特徴です。この 1~2 年は、コロナ禍のため、対面での研修が難しいので、オンラインを利用したりリモート研修を行っています。

現在、同社が最も意識的に力を入れているのが、「人間力の養成」です。コロナ禍に直面し、従来の生活、職場での活動が大きく制約を受ける中で、真に問われているのが、一人ひとりの生きる力であることを考えると「人間力の養成」に注目されておられるのはさすがと思っています。

大切にしているもの

お客様が喜んでくださる時が、一番の幸せです

お問い合わせ：株式会社 ミズ・インターナショナル

〒108-0074 東京都港区高輪 4-8-7 りぶ高輪 204 号

TEL 03-3473-8622 FAX 03-3473-8613

URL：<https://www.businessmanner.jp/>

～*～*～ あとがき ～*

朋友だより 172 号をお届けいたします

親は選べず、人生は家庭環境次第で決まるという人生観がカプセル玩具の販売機に例えられて若者を中心に親ガチャと言われているといます。今、私たちは総選挙という国政に自らが大切な一票を選べる機会を前にしています。10 月 3 日の毎日新聞で 1 面に澤地久枝さん、社会面にサーロ節子さんの記事が掲載されていました。

澤地さんは「反戦」を軸としたノンフィクション作家であり、2004 年から憲法改正に反対する『九条の会』の呼びかけ人の一人であり、2015 年からでは毎月 3 日に国会前に立ち「アベ・スガ政治を許さない」という意見表明をこの 9 月 3 日まで続けてこられました。「戦いなき世界を子どもに継ぐ」ことのために今後も発信を続けられるとおっしゃっています。

サーロ・節子さんは 2017 年ノーベル平和賞授賞式でスピーチした方です。広島で被爆し、現在カナダに在住しており、このコロナ禍にもオンラインで被爆の証言活動をつづけて、各国首脳に核兵器禁止条約への参加を促しています。総裁選で「聞く力を特技」とアピールした広島出身の岸田氏は遠戚関係にあるそうです。＜責任ある指導者であれば、必ずやこの核禁条約に署名するに違いありません。署名を拒否すれば歴史の厳しい審判を受けることになるでしょう＞との彼女の発言に耳を傾けてください。

先輩方の反戦・非核を私の投票の基としたいと思います。(野上)



朋友

有限会社 コンサルタント朋友
〒174-0064 東京都板橋区中台 1-35-10
TEL. 090-4439-4550 FAX. 03-3935-3510
e-mail foryou91@tokyo.email.ne.jp
URL:<http://www.consultant-hoyu.co.jp>